

ローカル・サーバのデータをクラウド・ストレージと連携

鈴木 貴典

表1 データ連携/移行に利用できるAWSサービス

AWSサービス	特徴/ユースケース
AWS DataSync	<ul style="list-style-type: none"> • オンプレミスとクラウド間やクラウド・サービス同士でのデータの移行/同期が可能 • 大量データを定期的に移行したり同期したりすることが可能 • SMB/NFS/S3などに対応
AWS Storage Gateway	<ul style="list-style-type: none"> • オンプレミスのデータをクラウドに同期する • 処理は非同期で自動で処理される(オンプレミスのデータをクラウドに自動バックアップする) • SMB/NFSなどに対応
AWS Transfer Family	<ul style="list-style-type: none"> • SFTP/FTPS/FTPでのファイル転送が可能 • SFTP/FTPS/FTPプロトコルを利用してのデータ送信が行えるため、既存でそれらのプロトコルを利用している場合に導入が容易になる
AWS CLI	<ul style="list-style-type: none"> • コマンド (CLI) で直接ファイルをS3に登録する • データ同期ではなく単純にデータを登録する、という意味では簡単に利用できる

本章では、オンプレミス(ハードウェアとソフトウェアを自前で用意したサーバ)のデータをクラウド・サービス Amazon Web Services(以下、AWS)と連携する場合の具体的な構成や設定について紹介します。

オンプレミスのデータをクラウドと連携させる

● ローカル側のファイルを削除してもサーバ側は保持…AWS DataSync

AWSのサービスを利用して、オンプレミスのデータをクラウドと連携させる場合、表1に示す幾つかの方法が考えられます。

AWS DataSync(以下、DataSync)を利用すると、オンプレミスのデータが削除されても、クラウド側のデータは削除されずに継続して蓄積が可能です。このため、オンプレミスの環境では直近で必要になる2~3カ月分のデータだけを保持しつつ、クラウドでは数年分のデータを蓄積し長期的な分析を行えるようになります、といったことも実現できます。

● 構成

本稿ではDataSyncを利用して、図1のようにオンプレミスのデータをAWSクラウドへ転送する構成を作ります。DataSyncの他に、エージェントとしてDataSync Agent、クラウドでのデータ保存にAmazon S3を使用します。

ローカル・ネットワーク環境に別ファイル・サーバを構築するのは大変なので、今回はローカルPCで共有ディレクトリを用意し、そこにネットワーク・アクセスすることで、仮想ファイル・サーバとします。

DataSync Agentとファイル送信元のファイル・

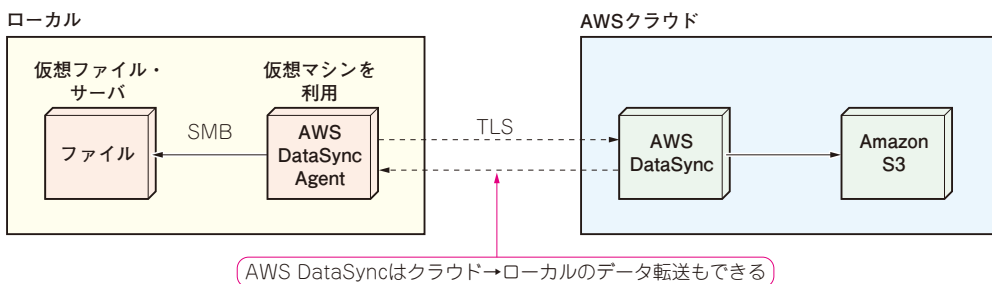


図1 AWS DataSyncを利用してオンプレミスのデータとクラウドを連携させる